

【携帯からスマホに変わっても】

携帯電話の使用について、学校では「緊急の場合のみ」ということで保護者からの申し出があった子どもが所持することを認めています。その使用の実態はどうなっているのでしょうか。約3分の2の児童が携帯電話（その多くが防犯ブザーやGPS機能もあるもの）を所持していますが、残りの子どもたちは所持していないことで特に困っていることもないようです。小田急電鉄で提供している改札通過確認用のメール送信サービス（グーパス）で大体の予想帰宅時刻が分かることも一つの安心につながっているかもしれません。

携帯電話から小型パソコンが電話機能を持つと言えるスマートホンが主流になりつつある今、これまでのような使い方の注意ではその利用の実態に追いつかないような気がしています。インターネットの世界がより身近になったと言えます。ゲーム用ソフトだけでなく様々なソフトをダウンロードすることもできます。それらのソフトは無料のものから有料のものまで様々です。無料だからいいというような判断基準では子どもをネットの被害から守ることができません。他にも家庭で一般的に使われているゲーム機の通信機能を使って友だちと交流していると聞いたこともあります。子どもが使っている機器の機能を全て把握することは難しいでしょう。しかし、難しいからといって子ども任せにしてしまうとすれば、それはとても心配です。

ちょうどこのようなことを考えているときに、文部科学省から以下で閲覧できるリーフレットが届きました。お時間がありましたら是非お子さんと一緒に読んでいただきたいと思います。

http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taisaku/1225103.htm

（「ちょっと待って、ケータイ&スマホ」で検索可能）

【登下校の安全について】

最近、登下校中の小学生が襲われたり怖い思いをしたりする事件が連続して発生しています。子どもたちの命を守ることは私たち教師、そして保護者の皆さんの最も大切な役目であることは言うまでもありません。桐光学園小学校では1～3年生の児童のスクールバスによる送迎、上級生に対しても横断歩道などでの見守りなどを行っていますが、尾根道方面からの徒歩通学の児童も増えていることもあり、児童の安全に対しては常に気を配ってなければなりません。また、自宅から最寄り駅やバス停までの道で、人通りの少ない所、見通しの悪い所など、注意を要するような所もあるのではないのでしょうか。子どもの目線を見て、恐いな、心配だなと思える所があったら一緒にどうしたらよいかを考えてあげましょう。危険な目にあったときに携帯電話は命を守ってはくれません。

なお、子どもたちが帰宅途中で平素と異なる道を通ることや、寄り道をすることもあるかもしれません。登下校の際に事情があって通学路を変更しなければならない場合は必ず事前に連絡してください。そうしていただかないと、予定時刻になっても帰宅しない、連絡が取れないというときに、何時ごろ学校を出てどちらの方面に向かったのか、誰と途中まで一緒だったのかなどを辿っていくことが全くできないことになってしまいます。休日などの子どもだけの外出についても、危険から子どもを守るためにも慎重になってほしいと思います。子どもだけの外出についてどう考えるかについてはそれぞれの家庭の教育方針と照らし合わせ、慎重かつ適切な判断をお願いします。もちろん、子どもだけの外出については場所、時間についてだけでなく、保護者の考えを子どもに伝え、子ども任せにしないようにしてください。

【役に立つんですか？】

算数の講習で6年生の教室に行ったときに、「先生、今日の勉強は大人になってから何かの役に立つんですか？」と聞かれました。突然の質問にちょっと驚きながら、子どもの本音なんだろうと思いつつも、やや後ろ向きその発言は、「さあこれから講習だ」と勇んで教室に向かった私にはちょっとしたパンチでした。自分のことを振り返ってみると「微分積分が何の役に立つのかな」と考えたことがあったのは覚えています。その答えは未だに見つかっていません。でも、役に立たないと決め付ける材料は何一つありません。算数、数学の考え方が日々の生活に生かされることはたくさんあります。もちろん他の教科の勉強もそうです。

私が気になるのは、子どもたちが「学ぶことの楽しさ」でなく「役に立つかそうでないか」という答えの出来ない疑問を持ち、その答えを安易に導き出し、自分が楽になる方向の答えを出してしまうことです。

子どもの中には、入試にない教科の授業は中学校受験に関係ないから頑張る必要がないと思う子もいます。実際にはそういうことを言う子ほど、その子が思う入試に関係のある教科の勉強も頑張れないものです。どうしてそういうことを思い、言葉に出すようになってしまうのでしょうか。淋しいです。

勉強に対しては、楽しい、面白い、苦しい・・・いろいろな気持ちがあるでしょう。でも、学ぶことに興味を持っていない子はいけません。学習内容がだんだん難しくなってきたと感じたとき、自分の勉強方法を見直し克服できる子でなくてはなりません。将来役立つかそうでないかは未来の自分が決めてくれるのではないのでしょうか？相談をされた私たちが答えを出すべきものではないと思います。